

平成 28 年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果について (概要)

平成 29 年 1 月 12 日
指 導 部

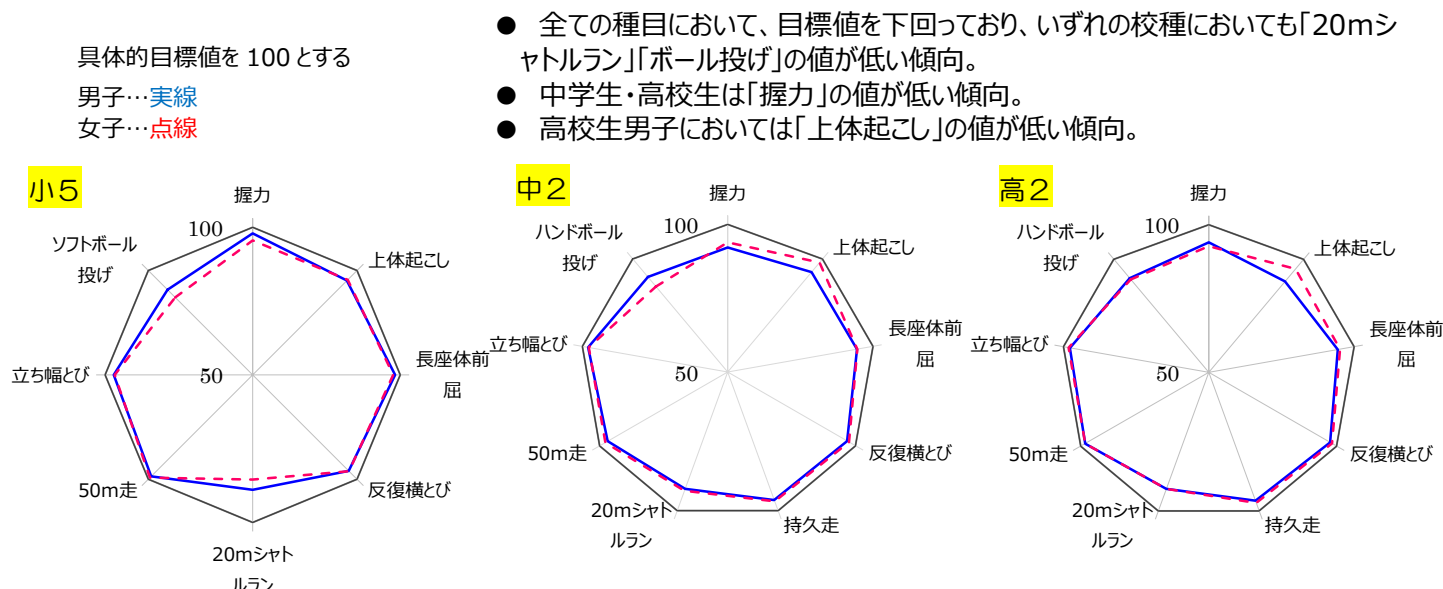
1 調査の概要

(平成 23 年度から全児童・生徒を対象として全校で実施 通称「東京都統一体力テスト」)

- (1) 調査時期 平成 28 年 6 月
- (2) 調査対象 (都内公立学校 全児童・生徒)
小学校 1,286 校(564,301 名)、中学校 620 校(222,485 名)、中等教育学校 6 校(5,481 名)、高等学校全日制 173 校(124,043 名)、定時制・通信制 55 校(10,793 名)、特別支援学校 44 校(6,685 名) 計 2,184 校 計 933,788 人
- (3) 調査内容
 - ① 児童・生徒に関する調査
 - ア 体力・運動能力調査(文部科学省指定 新体力テスト実技 8 種目)
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ハンド(ソフト)ボール投げ
 - イ 生活・運動習慣等の実態に関する質問紙調査
 - ② 学校に対する質問紙調査

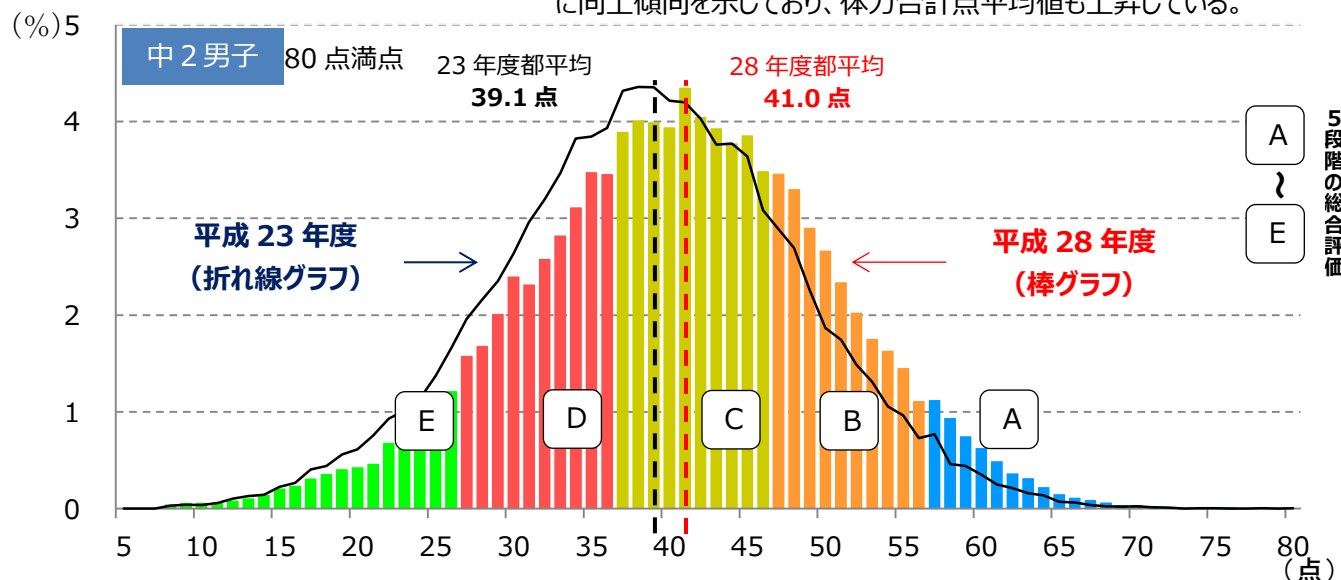
2 結果の概要

(1) アクティブプラン to 2020 体カテストにおける具体的目標値との比較



(2) 体力合計点の分布状況

- 東京都統一体力テストを開始した平成 23 年度と比べると、全学年共に向上傾向を示しており、体力合計点平均値も上昇している。



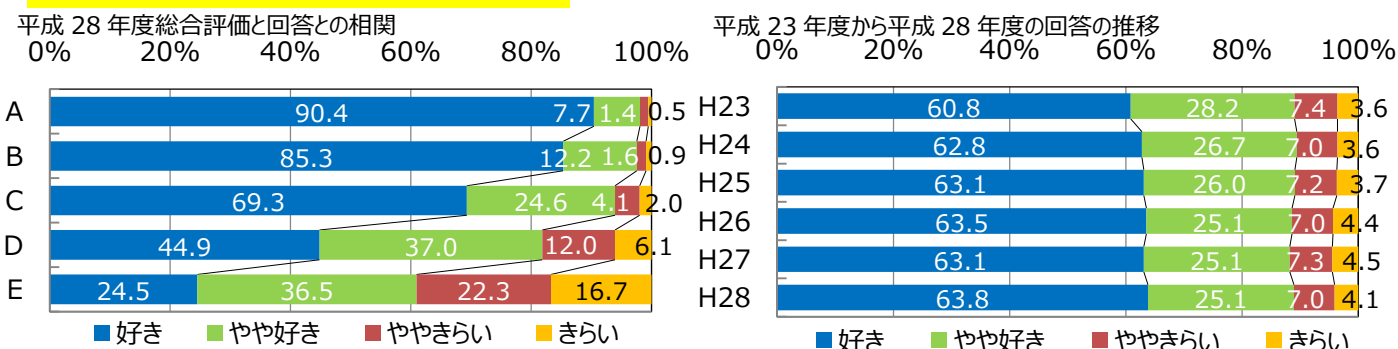
(3) 種目別傾向 ~平成 27 年度東京都統一体力テストとの比較~

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
小5男子	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↘
小5女子	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗
中2男子	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗
中2女子	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗
高2男子	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘
高2女子	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗

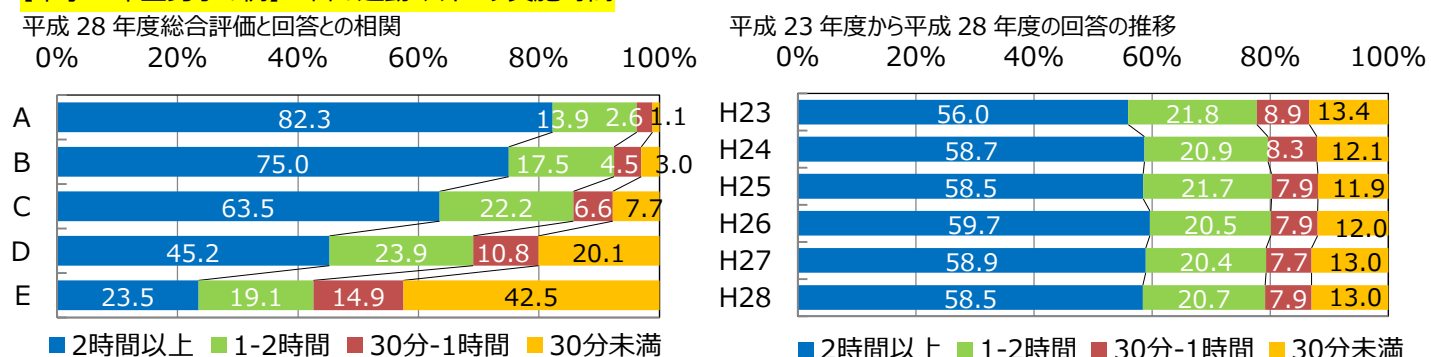
- 小学生は男女共に、「長座体前屈」の値が低下。男子は「握力」「ソフトボール投げ」の値が低下。
- 中学生は男女共に、各種目の値が向上。
- 高校生は、女子は、「20m シャトルラン」の値が低下。男子は、「上体起こし」「長座体前屈」「立ち幅とび」の値に大きな変化はなく、「握力」「20m シャトルラン」「ハンドボール投げ」の値が低下。

(4) 運動習慣や意欲の状況~総合評価との関係~

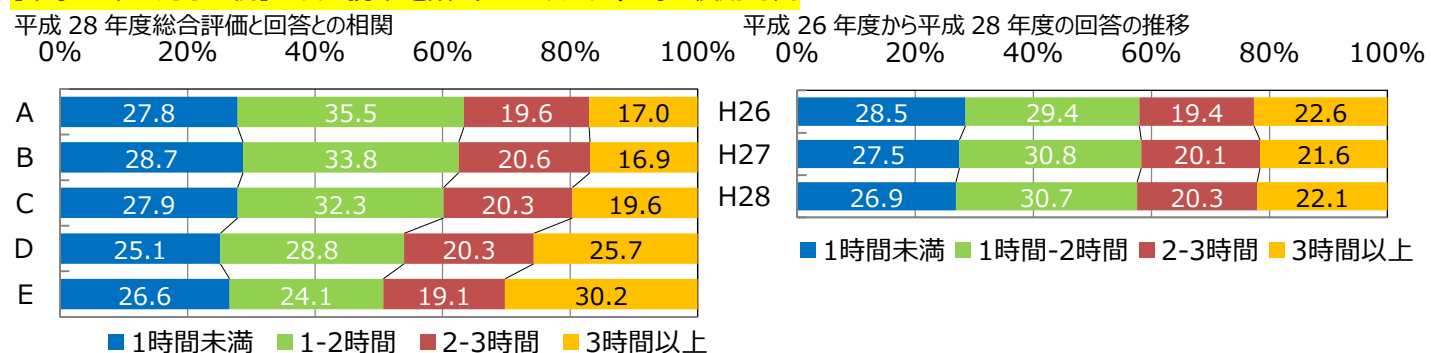
【中学 2 年生男子の例】運動・スポーツの好き・嫌い



【中学 2 年生男子の例】1 日の運動・スポーツ実施時間



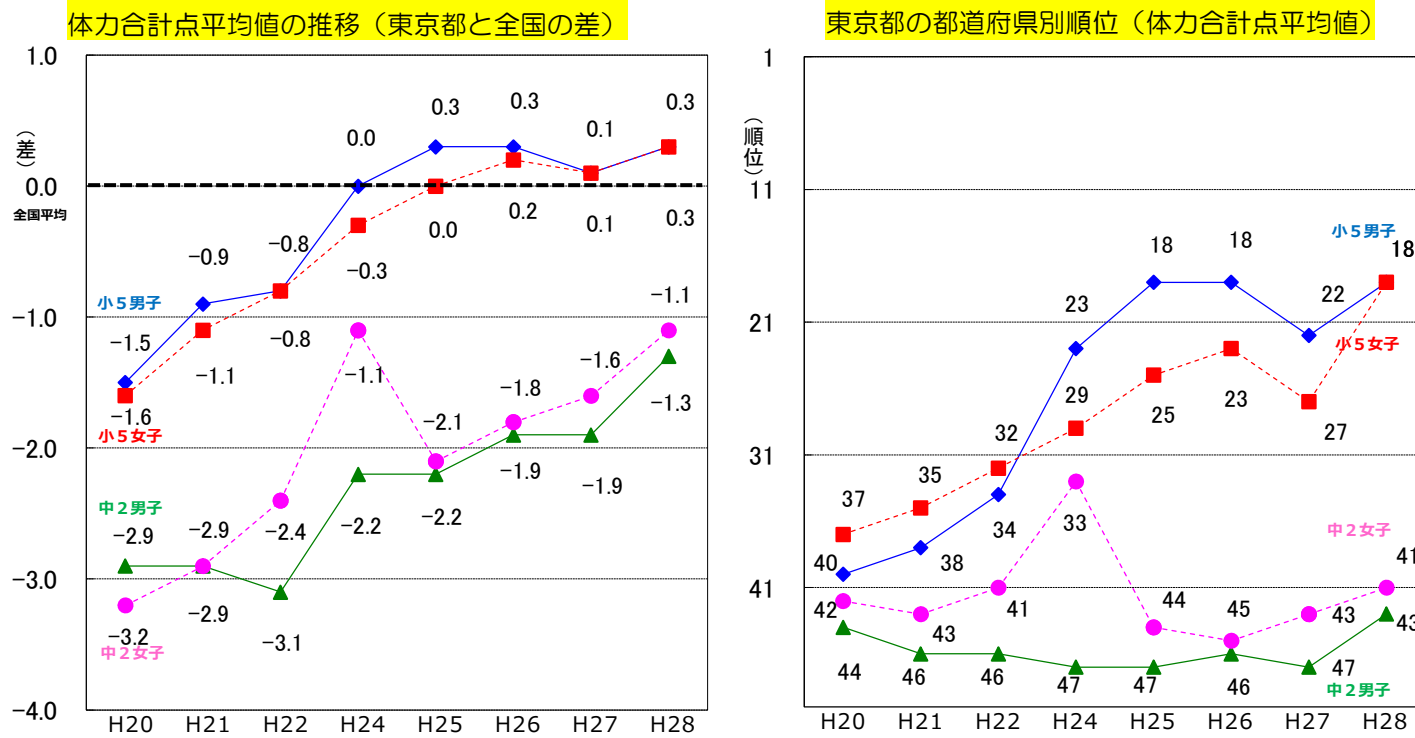
【中学 2 年生男子の例】1 日の携帯電話 (スマートフォン) 等の使用時間



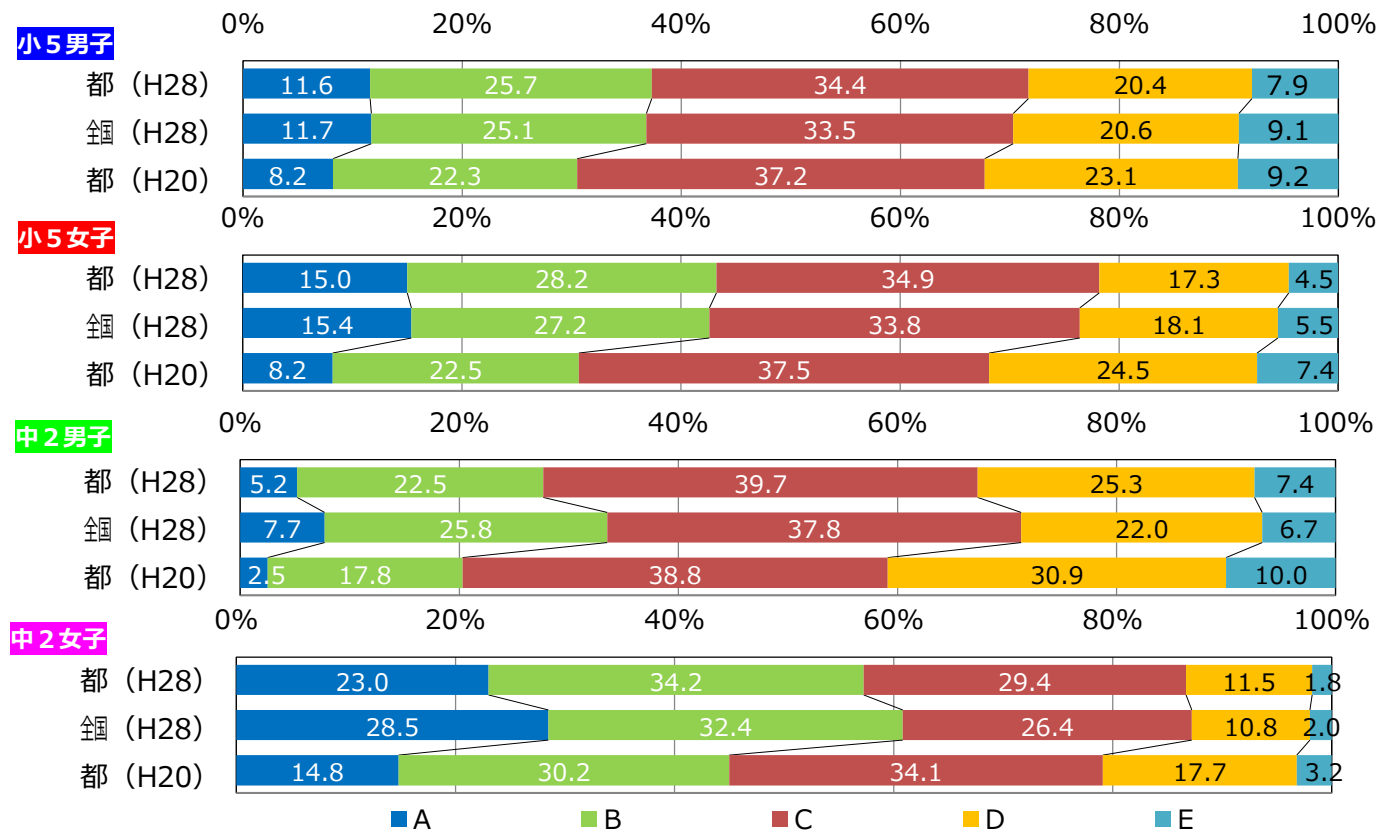
- 運動・スポーツが好きな児童・生徒、運動の実施時間が多い児童・生徒ほど、総合評価が高いが、平成 23 年度からの回答の推移に大きな変化はない。運動の意欲向上や生活習慣の改善が課題。
- 1 日の携帯電話 (スマートフォン) 等の使用時間が長い児童・生徒ほど、総合評価下位層 (D・E 層) が多い。

(5) 体力合計点平均値の推移・都道府県別順位～全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より

小5男子…◆ 小5女子…■ 中2男子…▲ 中2女子…● ※平成23年度は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が中止となった。



総合評価の比較



- 小学5年生は男女共に全国平均値との差を広げ、中学2年生は男女共に差を縮めた。
- 前年度と比較して、小学5年生・中学2年生、男女共に全国順位を上げた。
- 小学5年生男女は、全国の分布状況に比べると、上位層（A・B層）は同等、下位層（D・E層）は少ない。中学2年生男子は、上位層（A・B層）は少なく、下位層（D・E層）は多い。女子は、上位層（A・B層）は少なく、下位層（D・E層）は同等である。
- 小学5年生男女、中学校2年生男女共に、平成20年度の東京都の値と比べると、上位層（A・B層）が増え、下位層（D・E層）が減少している。

3 今後の取組～アクティブプラン to 2020の推進～

(1) 成果と課題

- ◇ 東京都統一体力テストを開始した平成23年度と比較すると、全学年共に向上傾向にあり、体力合計点平均値も上昇している。
- ◇ 中学2年生の体力合計点平均値は男女共に最低水準であったが、平成28年度は、男女共に順位を上げている。小学5年生の体力合計点平均値は、男女共に全国平均値を上回り、順位を上げている。特に、女子は過去最高の順位となった。
- ◆ 平成23年度から、子供たちの運動習慣及び生活習慣に大きな変化は見られていない。
- ◆ どの校種においても、各種目の平均値及び体力合計点平均値は向上傾向であるが、「握力」「ボール投げ」については、依然として低い状況である。
- ◆ 「ボール投げ」については、全ての学年で全国平均（平成26年度）を下回っている。
- ◆ 体力テストを6月に実施した学校は、体力合計点平均値が高い傾向にあり、事前指導を充実させた成果と考えられる。しかし、実施率は、小学校では64.6%、中学校では42.2%、高等学校（全日制）では16.2%と十分ではなく、さらに6月実施を推進する必要がある。

(2) 目標

平成32年度までの具体的な目標

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催都市にふさわしい運動・スポーツに親しむ元気な児童・生徒を育成
- 区市町村教育委員会・学校と連携した体力向上の推進
- 基本的生活習慣の改善・定着
- 体力合計点平均値の向上（小学生は都道府県別の上位、中学生・高校生は全国平均値程度）
- 低下傾向を示す「握力」「ボール投げ」の向上

(3) 平成29年度における重点的取組

① 中学生の体力向上

- 健康教育のモデル校の「アクティブライフ研究実践校」（小学校20校）における、優れた取組や成果を広く発信し、都内全小学校の健康教育の充実を図ることで、小学校段階から、基本的生活習慣の定着・改善等を推進する。（学校ごとに中間報告会を実施）
- 「アクティブスクール」として位置付けた全中学校において、自校の目標（値）や取組内容を定めた「体力向上推進計画」の作成、取組を強力に推進していく。
- 体力向上のモデル校の「スーパーアクティブスクール」（中学校62校）において、体力を向上させるための指導法の工夫や運動部活動加入の推進等の、体力向上の取組をさらに充実させ、その成果を全中学校へ発信する。（学校ごとに中間報告会を実施）

② 投げる力等の向上

- 「基礎体力の向上」「投げる力の強化」に向けて、学習方法や運動内容等、体育授業や運動部活動において活用できる「体力を高める運動ガイドライン」を作成し、全公立学校へ配布する。
- 本ガイドラインを活用した研修会を実施し、内容の普及を図る。

③ 体力テストの効果的な実施

- 体力テストの意義や目的、一人一人の目標値の設定、各種目の実施方法等を、確実に指導することや十分な準備期間を確保することについて、体育担当指導主事連絡協議会、中学校及び高等学校体育主任連絡協議会等の機会を通して周知し、6月実施を推進する。